

○ 委員長報告

12月定例会本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和6年12月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、かんきつ園地の復旧・復興状況等についてであります。

このことについて一部の委員から、西日本豪雨で被災した園地の復旧・復興の状況と樹園地の防災力と生産力の強化の取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、被災園地の原形・改良復旧については、昨年末に工事が全て完了した。再編復旧は、4地区全てで工事が本格化しており、整備予定の19.7haのうち、約4割の7.6haが本年度末までに完成し、来年春には4地区の復旧した園地で植栽が開始される見通しである。

また、被災園地以外にも、県下7地区で災害に強く生産性の高い園地への再編整備に取り組んでおり、一部園地では紅プリンセスの植栽やハウス設置など優良中晩柑の生産拠点化が進んでいるほか、本県特有の急峻な地形に適応する、小規模園地の整備手法や防災効果の検証にも取り組んでおり、今後も地域の実情に応じた産地の基盤強化を推進していきたい旨の答弁がありました。

第2点は、かんきつ類の生産・販売状況についてであります。

このことについて一部の委員から、本年産かんきつ類の生産・販売状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、温州みかんは、梅雨明け以降の高温の影響で、樹勢低下や日焼け果の発生などが見られ、10月1日時点の生産予想量は、昨年比90%程度と見込んでいるが、果実は大玉傾向で糖酸のバランスが良く高品質に仕上がっており、先月下旬までの京浜市場の販売価格は、昨年比121%と極めて高値で取引されている。

また、これから出荷が本格化する中晩柑類も、昨年より生産量は多少減る予想であるが、紅まどんなの先月中旬までの販売価格は昨年比109%と順調である。温州みかん、中晩柑類とも、果実の着色遅れにより、現在は例年に比べ、販売数量は少ない状況であるが、今後、気温の低下に伴って着色が進み、出荷

量は増加していくと見込んでいる旨の答弁がありました。

第3点は、第5期愛媛県森林環境税についてであります。

このことについて一部の委員から、第5期森林環境税をどのように活用していくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県内人工林の多くが伐採適齢期を迎えており、成長旺盛な若い森林へと転換させ、持続可能な森づくりを進めていく必要があることから、「伐って、植えて、育てる」主伐・再生林を強力的に推進することとしている。

また、未来につなぐ林業の実現のため、省力化・低コスト化による、多様な担い手が参入しやすい労働環境の整備のほか、カーボンニュートラルの実現に貢献する、非住宅分野等への県産材の利用促進などに、重点的に取り組みたいと考えている。さらに、令和8年春の全国植樹祭を契機に県民と森との交流を一層促進するため、えひめ森林公園の魅力向上や、幅広い世代への森林環境教育等を通じて、森林への理解促進を図っていく旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ misho・ゆずの欧州輸出
- ・ ひめの凜の生産・販売状況
- ・ 豚熱の対応
- ・ 酪農経営の現状等
- ・ エリートツリー等の開発・普及
- ・ 家畜自衛防疫対策支援事業

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。